

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

急性・慢性心不全診療ガイドライン かかりつけ 医向けガイダンス

日本心不全学会 急性・慢性心不全診療ガイドラインかかりつけ医向けガイダンス（編集統括：筒井裕之 九州大学大学院医学研究院循環器内科学）

ライフサイエンス出版、2019年3月30日 第1版第1刷発行

Minds 掲載 無

■1 甘草、芍薬甘草湯

疾患：

ナトリウム・水分貯留作用（浮腫、血圧上昇）、低カリウム血症、偽性アルドステロン症（副作用）

副作用に関する記載ないしその要約：

非心臓疾患に使用される注意を要する薬剤の項に、下記の記載がある。

『甘草

代表的な薬剤：カンゾウ（ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒など）

適応症：急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛、筋肉・関節痛、胃痛、腹痛

副作用：ナトリウム・水分貯留作用（浮腫、血圧上昇）、低カリウム血症、偽性アルドステロン症

発症頻度：頻度不明』